

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1092600046 | | |
| 法人名 | 吾妻総業株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームやまゆりの家 | | |
| 所在地 | 群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町50番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年2月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、ご家族の気持ちや希望を第一に考えと共に、尊厳を守り、施設理念に沿った介護を行っています。入居者おひとりおひとりの得意とする事柄を発揮できる機会を作り、自信を持って生活して頂く事に力を入れています。
やる気のある地域の人を中心に雇用し、人材育成や資格取得の支援を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | サービス評価センターはあとらんど | | |
| 所在地 | 群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月20日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で閉塞的になりがちなか中、楽しみながら外気に触れる機会を持つ工夫をしている。少人数での日常的な散歩だけではなく、利用者の希望を聞きながら慣れ親しんだ場所や実家巡りと称したドライブを行っている。前回の評価結果をふまえ、災害対策では毎月訓練を実施している。出火場所を変えながら避難時間を計測したり職員の動きをマニュアル化するなど、スムーズな避難実施に向け積極的に取り組んでいる。職員が意見交換しやすい職場づくりを意識し、全体会議では職員の「一分間スピーチ」を設けている。これはお互いを知るきっかけになるとともに、自由に意見交換ができる事で利用者や家族の思いを多面的に捉えられ、共通認識を持って支援をする実践に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者様にとって、やまゆりの家が家庭であり、安らぎの場所になるよう、毎日の申し送りや会議で、理念の確認をしています。常に私共の社会的役割や地域との関わりを意識し、根拠ある行動をしています。 | 管理者は、職員が理念を自覚し支援にあたっているか、個別の介護計画に沿った声掛けや支援をしているかを確認し、職員と共有できるよう努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍以前では地域の行事など、地域の班長さんや民生委員さんを通じて知らせさせて頂き近所の方々と共に参加していました。ゴミの収集場所や施設の駐車場はいつでも地域の方に利用して頂けるようにしています。近所の方と野菜やお花のやり取りなどの交流があります。 | コロナ禍では以前のような交流は難しいが、散歩の途中で花をいただいたり、地域の班長や家族から情報が入っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 介護相談はいつでも対応しています。コロナ禍の為、情勢を見つつ施設見学も行っていきます。また車いすなどの福祉用具の無料貸し出しや使い方の説明もしています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度の運営推進会議を予定しています。開催の際には東吾妻町保健福祉課の方や地域の区長、班長、民生委員様に出席いただき近況報告をし、現状での問題点や改善案を話し合っています。コロナの感染対策の為、現状として紙面開催や中止とさせて頂いています。 | コロナ禍の為、運営推進会議の中止の連絡を書面で行っている。 | 会議の再開時、安心感を持ってスムーズな進行になるように、中止の間も家族をはじめ参加メンバーに事業所の取り組みを知らせる報告書を作成してはかがか。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 施設の現状報告を行い、制度の改正内容の確認、研修関係や困難事例の相談もその都度しています。 | 行政には報告や相談を随時行っている。家族の依頼で、介護保険の更新代行や認定調査の立ち合いを支援している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全体会議やユニットカンファレンスにて禁止の対象となる具体的な行為をあげて勉強会を行い職員の共通認識を図っています。玄関は原則として施錠せず出掛けていく入居者様には職員が付き添ってできる限り自由な暮らしが安全に送れるようにしています。 | 身体拘束の無い支援について勉強会を定期的に行っている。玄関の鍵は基本的にかけていない。スピーチロックについては日々の支援の中で注意を払っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 厚生労働省が定める虐待防止の基本を基に、勉強会を行い全職員で学んだ知識を共有しています。全員が虐待などの報告義務を周知し、小さな気づきでもヒヤリハット記録に残し、福祉理念に沿った介護であるか検討しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 群馬県や社会福祉協議会のHPなどを参考にし学ぶ機会を設けています。内容は管理者や職員全員が勉強会を通して共有しています。管理者は対象の事例に対して、適切な相談先へ申し送りができるよう努めています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前にはご家族、ご本人に施設見学をして頂き、リスクについてもお伝えし、質問や相談に対応しています。制度や施設の説明には十分な時間を取り、ご理解、納得を得た上で契約させて頂いています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 公的相談窓口の紹介は重要事項説明書の中に明示し、入居時に説明しています。管理者は面会のご家族にその都度「何かございませんか？」と声をかけ気軽に相談できる関係作りに努め、コミュニケーションを大切にしています。その中で頂いたご意見等を運営に活かしています。 | 利用者からは食事の好き嫌いや排泄用品の置き場所など様々な意見が出され、職員は共有して支援をしている。家族には面会時に声掛けをして確認している。 | コロナ禍で以前のように面会や外出もできない家族の不安を考慮し、日頃の様子を積極的に伝え、気軽に意見を出してもらえる様に働きかけてみてはどうか。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 経営者参加の定例会議やユニットカンファレンスを行い、各職員に意見や発言する機会を設けています。日頃からコミュニケーションを図り、発言しやすい環境作りに努めています。 | ユニット会議では、モニタリングやケアの方法について話し合っている。全体会議で職員が自由に発言できる「一分間スピーチ」を設け、お互いを理解し意見交換がしやすい職場づくりに取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 経営者が施設に来ることで職員とコミュニケーションを取り、状況の把握に努めています。職員の資格取得支援として費用補助や勤務調整をしています。職員の希望を尊重した職場環境作りに努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 群馬県等が行う研修に積極的に参加しています。資格取得の為に施設として、受験費用や受験交通費、宿泊費等を負担しフォローしています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 認知症介護研修等へ職員を派遣し、施設間の交流に努めています。近隣の事業所同士で連絡を取り合い協同しながら質向上に取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居相談の際には十分な時間を取り、必要時にはご自宅や入院先へ出向き、ご本人、ご家族とお会いしてお話を伺っています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | これまでの困り事や経緯を傾聴し、一緒に考え、協力させて頂く姿勢を伝えています。事業所が提供できるサービスの他にも、社会資源の紹介等も含めて話し合いをしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時にはご本人の状況やご家族の介護力の確認をし、その時々に必要な社会資源につなげるようにしています。施設の空室状況をお伝えし、その時々に応じた柔軟な対応に努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員と入居者様が炊事、洗濯、掃除を一緒に行う事で生活を分かち合う、関係性を深めています。得意な事(裁縫、料理、俳句、茶道)は教え合ったり、共同生活の苦労や楽しみを共感し、支え合っています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族との面会(コロナ対策の為、時間、場所は制限あり)や、電話は自由に出来るよう援助しています。日々の様子を毎月、写真とともに郵送し、施設での生活をご家族へ伝える工夫をしています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在の自宅や、実家までドライブに出掛けたり、友人への手紙やはがきの代筆、電話の取次ぎ等、馴染みの関係や、思い出が途絶えないように援助しています。 | 感染防止と警戒度を考慮した面会、手紙や電話のやり取りを支援している。趣味の茶道や生け花を披露してもらったり、希望に応じ館内の歩行や献立のメモ、習慣の化粧ができるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共有の場所が心地よく過ごせるように、環境整備をしています。食事やお茶の時間は食堂ホールに全員が集まれるようにお声掛けをし、馴染みの関係で楽しめるように座席の配置やテーブルの位置をその都度調整し、和やかに過ごせるよう配慮しています。職員は個々の個性を尊重し、人間関係の調整役に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 転居先には、やまゆりの家での生活状況を文書でお渡しし、情報提供をしています。転居先の施設の方と共にケアの方法を考えたり、連絡を取り合っています。ご家族へは環境が変わった事で不安や困り事があればいつでもご連絡いただくようにお伝えしています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 定期的なモニタリングやアセスメントを行い、ご本人やご家族の思いを傾聴し、暮らし方の希望や意向を把握するよう努めています。また職員全員が個々の思いに関心をはらうように心掛け、情報の共有を行っています。 | 日々の生活の中で、利用者が思いを表現できるように、それぞれの職員が働きかけ気持ちを受け止めている。入居前の自宅訪問や関係機関からの情報も参考にしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居に際してはご家族、ご本人とお会いして、十分に時間をかけて様々なお話を伺っています。個性や価値観等のアセスメントを行い、以前に利用されていたサービス関係者様からも、過去の具体的な情報収集をしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ADL、精神面、認知面の変化に気を配り、情報は毎日の申し送りで全職員が共有しています。個々の生活を尊重し、出来る事に注目した援助をし、その内容は記録に残しモニタリングやカンファレンスで確認しています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族の意向を十分に伺い、プランに反映させています。日常の会話の中でケアの内容についてモニタリングを行い生活課題を職員で共有し、課題分析をし援助内容の検討をしています。日頃の関わりの中で伺える思いや意見を尊重したプラン作りをしています。 | モニタリングは毎月行っている。計画は個々の希望を生かし作成されている。見直しは以前は3か月ごとに行っていたが、生活の変化も考慮し、現在は6か月ごととしている。アセスメントと担当者会議も同時に行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別ケース記録とケアプラン実施表へ毎日の生活記録をしています。受診結果や体調の変化は申し送りノートへその都度記録し、職員が出勤時に必ず確認しています。双方の記録は介護内容の検討資料にしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人、ご家族の状態に応じて、急な受診の対応やご家族を含めた送迎も臨機応変に応じています。福祉車両が必要な際はその都度相談に応じています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行政、消防、警察には防災や防犯のご指導を頂いています。外出が難しい方は地域の訪問理美容や訪問診療を活用しています。外出時等に道の駅は休憩や地域の方との交流の場として活用しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診はご本人、ご家族の意向を伺い、以前からのかかりつけ医を継続して受診できるように援助しています。訪問診療を利用する方には安心して受診できるよう、環境整備と医師への情報提供をしています。 | 受診方法は説明し、希望に応じ選択してもらっている。受診は家族の同行を基本としている。往診と緊急時の対応をしてくれる医師がいることも説明している。歯科も必要時に受診と往診ができる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調の変化や負傷時には直ちに看護職へ相談し、適切な医療につなげています。かかりつけ医様、訪問看護師様、やまゆりの家看護職員へ相談しながら日頃の健康管理を行っています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には直ちに医療機関、ご家族へ情報提供をしています。認知面の情報を詳しく伝え、治療がスムーズに出来るように協力しています。医療機関のMSW、CM、NSと回復状況、受け入れ状況等の情報交換をしています。日頃より施設の状況やコロナの対応等で相談させて頂いています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期は、入居時に文書と共に説明しています。ご本人の体調やADLの変化は、早い段階でご家族へお伝えし、私共で出来る事と出来ない事をお伝えしています。ご本人、ご家族のニーズを随時確認し、意向に沿った援助が出来るように他サービスの申し込みや手続きの援助もしています。 | 入居時に事業所の指針を説明し、入居後は状況に応じた相談を行っている。看取り支援は行っていない。退居後についての相談や手続き支援を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当マニュアルを整備し、周知徹底を図っています。夜間時の緊急対応はご本人、ご家族と事前に話し合いをし、個別ファイルや申し送りノートへ明記し、共有しています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 月に1度、昼夜問わず様々な想定で自衛消防訓練を行っています。個々の認知面、ADLを考慮し避難方法を検討、共有しています。半年に1度、広域消防様へ依頼し合同訓練を行っています。緊急時には連絡網を通じて職員全員が関わる体制です。 | 毎月避難訓練を行っている。職員の動きはマニュアル化し、時間帯や出火場所を変え避難に要した時間を測り、スムーズな避難に向けた訓練に励んでいる。食料品を3日分、飴や排泄用品等を備蓄している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人らしさを大切にお一人お一人の人格、尊厳を尊重し、その人に負担をかけない援助が出来るように、個別性や行動規範に基づく話し合いや勉強会を行っています。個人情報の取り扱いには全職員が守秘義務について十分理解しています。そぐわない言動があれば職員同士で指摘し | 利用者の個性を尊重し安心して楽しみながら生活してもらえよう、職員は工夫し情報を共有して支援にあたっている。利用者の気分にあわせた声掛けや異性介助なることの確認も行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | スケジュールにとらわれず、一人ひとりが何をしたいかを尊重し過ごして頂いています。食事のメニューは、リクエストを伺い決めています。好きな事や関心事に留意し話しやすい関係作りを心掛けています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 外に出たい方と一緒に散歩をしたり、甘い物が食べたいとの希望があればまんじゅうやおやきを作ったり、実家に帰りたい方には一緒にドライブに出掛けたりと、個々のペースに合わせ柔軟な対応をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その日に着たい服や身に着けたい物は、ご本人が決めています。スキンケア用品や化粧品等、お手入れが継続できるようご家族と連携を取りながら援助しています。毎日の髭剃りや眉毛描き等、こちらで介助させて頂くと大変喜んでくださいます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の献立はまず皆さんのリクエストを伺ってから作ります。食材を切る、ちぎる、盛り付ける等、出来る人が出来る事を行っています。その他にも台拭き、食器拭き、お盆拭きなどを自分の役割として行ってくださいます。 | 外注の食材を利用しているが、月に10日間は利用者の希望を取り入れた食事を提供している。利用者の摂取方法や食欲を考慮し支援している。家族の差し入れは居室で楽しんでもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の嗜好や苦手な物等を把握し、常に代替品を用意して対応しています。食事はその都度記録し、1日を通した摂取量を把握しています。必要な方には水分量の記録も行い、味や温度、時間等に変化を付け摂取できるよう工夫をしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアは、事前に個々の習慣や意向を伺い、自立されている方にはその状態が継続できるように援助しています。その他の方にもまずご自分でケアされた後に、職員が足りないところを援助しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自尊心や羞恥心に配慮し、セルフ能力を把握したうえで身体機能や認知面の変化に応じた援助にさりげなく関わられるようにしています。居室へポータブルトイレを設置したり、排泄リズムを把握したうえで声掛けを行う等で排泄が自立出来る様に支援しています。 | 排泄はトイレで支援する事を基本にしている。利用者の状況に合わせた支援や排泄用品の検討をし、自立している利用者にも、身支度や汚染がないか必要な支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便通の良くなる食材の工夫をしています。薬の影響で便秘になる可能性がある事も職員間で周知しています。水分補給の徹底を行い、個々に好きな物がいつでも飲める環境にしています。生活の中で身の回りの事や家事をする機会を作りセルフケアと運動が無理なく自然に出来て、お通じも良くなるように援助しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 月曜から金曜まで入浴出来ます。希望を伺い、その時々々の気持ちや体調等に配慮した対応をしています。ゆっくり入浴したい方や、足浴、シャワー浴、清拭の希望がある方等、希望に添った個別支援をしています。 | 月曜日から金曜日まで入浴支援ができる体制を整えている。入浴時間は午前午後設けており、利用者の入浴予定は決まっていますが、毎日入浴出来ることを知らせる声かけをしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣や日中の活動状況を把握し、疲労度に合わせて休息が取れるように配慮しています。共有場所にゆったりと休めるように所々にソファを配置するなどの環境を作り、居室は安眠の為の環境作りに努めています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容は個別ファイル等に最新情報を保管し、全職員が共有しています。副作用について理解し、変化があれば詳細に記録を残し、受診時に主治医へ相談をしています。処方変更などは申し送りノートへ記載し、全職員に周知徹底を図っています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の生活歴や得意な事を伺い、それぞれの活躍できる分野で経験や知識を発揮し、役割や楽しみ事ができるように配慮しています。行事や日々の食事から季節の移り変わりを感じてもらったり、昔の暮らしを想起出来るようなイベントを実施しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 人ごみを避けながら散歩、買い物、ドライブ等、コロナの情勢によりますが一人ひとりの希望を伺い、外出しています。近所の方のお庭を見学させて頂いたり、花のお裾分けを頂く事も多々あります。ご家族にご本人の希望をお伝えし、外出の協力を頂く事もあります。 | 外気に触れる機会を設け、日々の散歩や少人数でドライブに出かけている。利用者の希望で馴染みの場所や実家巡りに出かけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族、ご本人の意向を伺い、ご自分でお金の所持を希望される方はお財布を持ち自己管理されています。普段お財布を持たない方も外出、買い物時には社会性の維持を考慮し、施設の財布を持って頂き、欲しい物を購入し、支払う場面を作っています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族、知人からの電話のお取次ぎをし、ご本人が一人でゆっくり会話ができるように話しやすい環境を作っています。手紙や年賀状のやり取りは代筆や代読をし、親しい方との関わりが途絶えないように援助しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一般家庭で使用する調度品を置き、所々に入居者様や、職員とで作った季節ごとの作品などを飾り、居心地の良いアットホームな環境作りに努めています。共用空間と自室との温度差をなくしヒートショック対策を行っています。 | 扇風機や空気清浄機を活用し換気に努めている。中庭に出られたり外の様子が窓から見える事ができ、開放感がある。毎日ホワイトボードに献立を書き、カレンダーと時計が見やすい位置にかかっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子やソファは個々の生活スタイルや、仲間同士の関係性に配慮し、台所の様子が伺える場所や、日当たりのいい場所、思い思いの場所で過ごせるよう配置し、居心地の良い居場所作りをしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に馴染みの家具や品物をお持ちいただくよう説明しています。仏壇や、女性ならではの調度品、趣味の道具もお持ちいただいています。家族写真や思い出の品々を飾り、居心地のよさに配慮しています。 | 居室にはベット・ダンス・エアコン・掛け時計は揃っているが、落ち着いて過ごせるよう自由に持ってきてもらっている。婚礼家具や仏壇・テレビ・テーブル・汚れ物を入れる籠・携帯電話など思い思いに持参されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人でもご自分の居室がわかるように、居室に名前や写真をおおきく明示しています。共有部には「べんじょ」等大きくわかりやすい文字表示をし、居室の床色は部屋ごとに変えて共有部との境界を作りわかりやすく配慮をしています。 | | |